

「プラスワン委員会企画 インドネシア視察団 報告会」

～あなたのビジネスにプラスワン！～

開催日：2025年2月25日（火）／参加者48名

報告者：清友監査法人 代表社員公認会計士 矢本 浩教 氏

南陽トレーディング（株） 代表取締役 里深 陽子 氏

（有）木下商会 代表取締役 木下 美紀子 氏

フセハツ工業（株） 代表取締役社長 吉村 篤 氏

（有）富士護謄 専務取締役 佐野 貴幸 氏

福地金属（株） 代表取締役 福地 守 氏

昭和交易（株） 代表取締役社長 山元 茂弘 氏

（株）エーディエフ 代表取締役 島本 敏 氏



インドネシア視察 実施概要

実施期間：2024年11月13日（水）～19日（火）

訪問地：インドネシア（バリ・ジャカルタ）

主な訪問先（敬称略）：日系銀行のジャカルタ支店／自動車・バイクのエンジン部品製造の企業（日系）／パッケージ製品製造の企業（日系）／展示会（食品関連では最大級）／JETROジャカルタ事務所／現地のフリースクール／インターナショナルスクール／社会問題解決型NGO団体（コペルニク）／スポーツの国際試合観戦（サッカー場）

なぜインドネシアを視察??

「チャイナプラスワン」という中国と関わりのあるASEANで成長著しい国を実際に視察することで視野を広げていくことが目的です。インドネシアは人口2億8千万人を超える世界4位の国で、将来は6億人になるとの試算もあります。GDPの成長率が高く日本との商売の付加価値が伸びています。資源大国でもあり、銅、ニッケル、鉛などの鉱石が豊富で、海外からFDI（外国直接投資）が増加しています。イスラム教国家でありながら、非常に親しみやすくウェルカムな雰囲気があります。また、華僑が経済を支配している背景があり、現地視察のなかで中国との関わりを知ることができました。

訪問先で聞いたインドネシア事情

- ・若い人が多く活気があるインドネシアですが、定年は55歳で平均寿命は60代後半。医療は最低限レベルでまだまだ弱いと感じました。
- ・ジャングルの中に首都を作っている！？ジャワ島の極集中なので他の島との格差は正と、東南アジア最大の経済都市ジャカルタの交通渋滞の緩和が目的だそうですが、実はジャカルタの地盤沈下が世界一ひどく、2030年には水没してしまう危険があることが最大の理由だそうです。でもまだ高層ビルがどんどん建設されていて、本当に沈むのかは疑問でした。
- ・海外の企業が進出する時、大企業・中小企業を問わず最低1億円の資本金を積みなければ会社は作れない。また、日本人1人に対してインドネシア人を10人雇わなければならないという法律になっていて、内需を拡大したいという思惑から本当にインドネシア経済の発展に協力してくれる企業だけを誘致したいようです。
- ・日系の自動車メーカーの市場が大きいインドネシア。部品メーカーは、現地生産して現地デリバリーなのでコストメリットがあ

り、現地仕様の共同開発もやりやすいようです。しかし、政府は自国の産業を守ることを第一に考えるので、輸入に対する規制が厳しいことが難点です。課題は人件費の上昇です。2012年の月給1万5千円から2023年には5万円、将来的には8万5千円になる見込みで、タイの方が安くなってしまうのではないかと懸念があります。

- ・ライバルはスマホ！！「Grab」というタクシーアプリの普及により、若い人は車やバイクを買わなくなっているそうです。
- ・たくさんの綺麗な日本車が町中を走っており中古市場も活発ではありますが、将来的な電気自動車への転換に危機感を持ち、商品開発や販路拡大に力を入れているそうです。
- ・中国の脅威の話がいろいろな会社で出ました。タイでは中国メーカーがシェア拡大しており、つぎはインドネシアでの日本車市場が危ういという感がありますが、まだまだ中古市場では日本メーカーが強いと話している会社もありました。

現地での交流や活動を通して

- ・バリ島のチャリティースクールを訪問し、子どもたちの歓迎を受けました。女の子たちが伝統舞踊を披露してくれたので、お返しに日本の茶道のデモンストレーションを行いました。子どもたちと一緒にサッカーをしたり、日本から持っていった着ぐるみの登場もあったりと、大好評でした。
- ・SIAL InterFOOD2024（国際総合食品・飲料展示会）にも参加しました。歩くのが大変なほどの人で、中国をはじめとする外国のブースが多く、中国がインドネシア市場をターゲットにしていることを実感しました。
- ・たまたま開催されていたサッカー日本代表対インドネシア代表のワールドカップ予選を観戦。サッカーファンの割合ですが、日本が29%に対してインドネシアは69%（約2億人）と非常に高く、インドネシアには膨大なマーケットがあります。

感想

参加メンバー全員のチーム力、仲の良さが伝わったいい報告でした。「この貴重な体験はまさに人生にプラスワンですね」（佐野さんの名言）。その通りだと思います。1週間という短い期間ですが、この視察での体験や仲間との関わりが人生に変化をもたらすことが多くあります。次回の訪中団やプラスワン視察には、ぜひ参加してみてください。

文：日中経済交流研究会 広報委員会
オーツケミカル（株） 合田 研吾